（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）　昭和拾年十二月十四日　平　新　報　第貳百參號　【一】

# 平新報

發行日　毎月三回　五、十、廿五日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町二丁目拾五號十二字詰一行　平新報社
廣告料一回五十錢　協所指定倍増
送料　一部　定價金拾錢　五厘

## 平商校新築と
## 平市の實現
### 隣村合併の
### 縣立移管が急務

平商業學校の校舍は磐城中學校の其昔の建築にかゝり改築の要に迫られてゐたが愈々同校卒業生よりなる商友會に於て新築運動する事になつたが、本來市制を布かんとするの際平町有力者は第一に平商の移轉新築を急務とせねばならなかつたのではあるまいか。而して新築と同時に縣へ移管して縣立商業とすべきが當然であり、市制施行を早からしむるのではないか。隣村併合で徒らに地區を擴げる前に先づ人口集密の度を加へなば無理せず平市は實現されるのではあるまいか。平商校新築運動の起つた此際敢て平町識者の一考を望むものである。

## 本格的寒さで
## 火災季節に入る
### 自他共に困る事を思ひ
### 火の用心を！

寒さにつれて火が戀しくなる備へてゐるが、本年の今迄は幸に火災がなく越年しそうではあるが今春は一二回かされた。俗に初午の早い年は、火が早いとされて九日より十四日迄六日間行はれた。

本紙は年來新舊新年否曆の統一を高唱し來たりたるもこの忙しい暮れにあたつては少くない。平地方のみで又亦其必要を痛感する
一新曆を用ゆる都會
一舊曆にて行ふ地方
一新曆一ケ月オクリの處
以上の如く地方々々によつ

## 慌しい歳晩
## 樂しい迎春

苦しい總勘定の月
曆の統一を急務とす

光陰矢の如しの古言通り小刻みに歩く裾に絡る落葉忙しい暮も日一日と迫つてを見る等寒い寂しいが物懐冷たい北風に舞ひ上る砂塵かしい歳晩風景である。

旬余に迫つた大晦日…明十五日は詠進歌締切り日
二十日　此日より年賀郵便特別取扱ひ開始
二十九日までゝあるが忙しい折の事とて兎角日が迫つてから投函し勝なので、夜分の寸時を利して用意され充分注意すれば手落や重復などは起らず郵便局でも取扱ひ上非常によいがと語つて居る。
二十三日　冬至　本格的冬で一年中一番日の短い日
一年に別れを告げると共に樂しい希望に滿ちた元旦を迎へる事になる。
豆を煮て喰べると中風にならないと。
二十五日　大正天皇祭、クリスマス！サンタクロースのお爺いさんは深更に幸福を齎らすと云ふ。
二十六日　各學校は休み
に入り諸官廳の御用納めは二十八日である。
三十一日　大祓、最後の日！一家揃つてリバを頂き除夜の鐘をきゝつゝ過ぎし一年に別れを告げると共に樂しい希望に滿ちた元旦を迎へる事になる。

## 學期末考査

各學級の學期末考査は去る

## 聯隊長査閲

縣下最初の磐中校中等學校に於ける聯隊長の軍教による査閲は東北にては仙臺一中及び新潟師範の二校のみであつたが、去月二十五日の磐中校にて擧げられたのは縣下に於ては最初であつた。當日全校庭には校長職員をはじめ、全校生徒の豪雨中の査閲に欠員なく成績頗るよく正しく縣下に誇り得るものがあつたと。

## 磐中短信

## 玉川村長
## 宮内久枝氏就任

宮内久枝氏は磐中第八回卒業で鹿島村走熊箱崎家より玉川村金成宮内家の養子となり、曾て東京に於て小學校長を勤めた温厚篤實な人で、氏の村長就任は一般より好感を以て迎へられた。左は氏の就任挨拶狀である

×　×

謹啓　時下秋冷之候益々御清穆の段奉慶賀候
陳者不肖儀本村助役在職中は公私共多大の御厚情を蒙り御厚志の段深く御禮申上げ候
今般玉川村長に當選し本日就職仕り候素より淺學菲才其の器に無之候へ共各位の御指導と御援助を仰ぎ村治の爲め誠意努力致し度所存に御座候間何卒一層の御厚情賜はり度奉懇願候
右乍略儀以書中御願旁々御挨拶申述度如斯御座候
敬具
十一月二十六日
玉川村長
宮内久枝

## 玉川新舊
## 村長助役
## 歡送迎會

十三日午后一時より小瀧に於て新舊村長、助役、野崎滿藏、宮内久枝、小泉宗雄三氏の歡送迎會を大塚校長駒木根組合長、村議發起の下に催された。

## 統制困難なる
## 玉川消防組

だが……副組頭決定

玉川村消防組副組頭駒木根忠三氏は昨年一月辭任後、他日に讓る事としたが。それ定に、石井平太郎、長瀬彰義の兩小頭を推したが部内の統制纏らず、往苒過して居つたが今回石井氏辭任に連れ小頭會計橋本雄吉氏副頭に推薦發令された。因みに石井氏は小頭在勤拾有余年であると。兎に角高萩組の兩驛も、過般の幹部會のゴダ道によつて連繋される湯本の兩驛は來春一月早々から水戸保線事務所の手で三月までに改築される事になつた。設計を聽くに
緩驛は豫算一萬七千圓で平家建濕いものだが
湯本驛は豫算三萬圓で將來必ず昔時の温泉鄉としてその玄關口に相應しい近代ルネサンス式二階建の立派なものとし、會議室、其他余分の幾室かを備へて、平小鐵道の小名濱湯本間延長新設の場合を考慮に入れてゐるものである。

## 温泉鄉再現と
## 平小線に備へて
## 湯本驛を
## モダン驛舍に

緩は貨物驛に相應しく
來春早々新築に着手

常磐線最高の貨物驛となつた緩と温泉鄉復活と平小鐵道によつて連繋される湯本の兩驛は來春一月早々から水戸保線事務所の手で三月までに改築される事になつた。設計を聽くに
緩驛は豫算一萬七千圓で平家建濕いものだが
湯本驛は豫算三萬圓で將來必ず昔時の温泉鄉としてその玄關口に相應しい近代ルネサンス式二階建の立派なものとし、會議室、其他余分の幾室かを備へて、平小鐵道の小名濱湯本間延長新設の場合を考慮に入れてゐるものである。

×　×

かつて某村長が村議と組んで被害農民より委任もされず各炭礦より壹萬に近き金員を出さし、その配當の支出を判然公表もせず、問題となつて居る。其筋ではギヤング取締等と隨分檢擧をなしたが如上の如きは大●●●に在らずして何ぞや着々村民の幸福、負擔輕減のため村理事者の村費亂消人山、磐炭、戸部氏各炭礦より礦毒被害に絡んでの問題は十二分、調査ちみなるも」本號には紙面の都合上他日に讓る事とした。それ讀者竝びに村民諸彦刮目して俟たるべし。吶！

×　×

玉川農會長は平町民野崎滿藏氏である、農會長は任期四ケ年とか規則はどうでも氏は村長を辭したら同時に農會長も自退すべきである……その聲が玉川農民間に多い、それとも郡農會評議員の●●●●●●●●年壹千余圓の豫算ある其農會は一体何をやつて居るのか農會費ばかり集めるのが能であるまい。兎に角玉川村自治平和のため、住年永井村長時代の如き反役場派と稱する人々が農會に立籠るが如き暗流對立を避けたいものだと村内識者間に叫ばれて居る。

×　×

某村某消防組へ某炭礦が火災の際其組員出動の謝志として贈つた金拾圓が其組の決算に現はれてない所から問題となり組頭着服？として責任を問はれて居るが一圓銘んでも刑せられ、羽織一枚入質し、數圓しかなら今日、いやしくも公職に在る組頭が拾圓猫婆々とせば解釋の如何を問はず是れ何の罪か。

×　×

本紙が前號に發表せる玉川村政問題に就いては「爾來……喝！

# 解散か、滿期か
## 來春の總選に
## 立候補する噂サの人々
### 「濱三郡第三區の分」

第六十議會は劈頭に果然議會解散となり昭和七年二月犬養內閣の下に行はれた總選に於て當選した、佐藤庄太郎、比佐昌平、鈴木辰三郞三代議士（得票順）に即ち本縣第三區濱三郡の選出議員、その間解散もなく、四ヶ年無事に議員殿として今日に至り、うち佐藤翁は洋行して去る拾日平館で歡迎會まで催され、鈴木氏は政友會石城部會長となつて居る。年末議會召集さるゝともに解散となるか二月二十五日迄持ち越して滿期改選となるが、豫斷を許さぬが去る七年の總選には、氏家清氏が落選の苦杯を甜めて居り、何人が立候補するか想像はされぬが、今日政界通の下馬許を報じて觀る

**民政黨** は石城郡では比佐昌平氏より他になく、双相より又氏家氏立つか、其間野崎黨はどう動くか小田吉治氏を擁立との噂サもある。

**政友會** は現議、佐藤庄太郞、鈴木辰三郞兩議員が再び出つるか、かつて政界隱退を聲明せる双相の松本孫右エ門氏出つるか、過般は鈴木氏が石城の公認であり、佐藤氏が「おれを一度位本郡から推して呉れ」と言はぬとも限らず、それとも佐藤氏はかつて今度だけだからと哀願した言質の關係上、洋行歸りを一期として勇退するか、鈴木、佐藤氏とも勇退して◆古川傳一氏を推すか將又◆田子健吉氏を輸入か兎に角這回の縣議選の縺れから部會長として鈴木氏が偏した應援振りが一般黨員から非難の多い今日氏自らの立候補は余程難事と觀測されて居る。此處に噂サに上る◆井上茂作氏は消防研究のため政界勇退を自ら聲明して居つたからテコでも動くまじく、古川氏出でずんば飛んで◆現縣參事會員小野晋平氏に御鉢が廻るか選擧肅正のある今日立候補挨拶狀は縣で配つて呉れるし、兎に角政黨も候補者も從來の如き運動費を消するの要はないから、其派の候補はやすく〳〵と決定すまいと觀られて居る。一方過般の縣議戰で一敗地に塗れた

**立憲養正會** では湯本町松柏館主、比佐榮一氏を推して必勝を期すとの噂サである。

## 問題の平小線
### 更に湯本へ延長の模樣

別項記載中にある「平小鐵道」は平町より豊間、江名（中ノ作通過）を經て小名濱へ至るもの〻如く、更に泉驛へ延長連繼される筈であつたが、經濟的見地其他及び温泉町再現に努力をなしつゝある湯本町の昔日の賑はひを豫想して、小名濱町より湯本町へ延長連絡される事が確實に決定された模樣である。

## 啓發運動

啓蒙運動といふ言葉があつたが筆者は常に啓發運動をなして居る、自他ともにである。一言一行、一筆その運動ならざるはない。即ち積極的に申せば破邪顯正である。昔の芝居ならば勸善懲惡である。これが狹義に於ける新聞紙の使命である法を犯さねば犯罪と思はぬ……といふ如き人の道に外れた人非人、社會に害毒を流す如き事、一般大衆の幸福を奪ふ如き、自派自已の利、都合のみ打算する爲政者は以つての外である。韓退之曰く「物その平を得ざれば即ち鳴る」物事は公平なるを要す。野崎村長當時玉川村が一萬圓の村債は即ち講堂建設と各通學道路の改修が眼目であらふ。講堂は建設された、祝賀式は揚げられた。そして式場各關係者は時計其他の紀念品を贈られた。講堂の使用は年に何回か、四大節、卒業式何々、ガラス、瓦破損すれば何ぼかの經常費が要る。校庭が狹くなる。運動會にこまる……それよりも過ぎた事だがぐにや〳〵の現校舍を直すが急務だつた筈だ兎に角村債は誰れが拂ひますか、野崎さんですか村會議員樣ですか、一寸伺ひます。通學道路然り、大字によつて片方に良く片方に滿足な費用を投ぜず、少し雨が降ると兒童は膝切り迄水に浸して通學し、甚しきときは迂廻する。これ通學道路改修の目的ですか、賢明なる教育者出の宮內村長樣に御伺ひ致します。

× ×

居村玉川村をして明朗なる住み吉き農村たらしむるには、どうしても黨派根情を絕滅し、一村一体、經濟上には勿論思想上より救はねばならぬ。それには理事者、村議の自發的共同共榮の公共心の發露であらねばならぬ。產業視察に行かぬ村議に旅費を與へたり、受けたりする事は「村費をやだらに費消する」は怪しからぬ事だ。もう一歩進んで兒童の教育である。養兎を小學兒童に獎勵して居るが、他人の草をヤダラに刈らし、野菜や桑を刈り盜る事を平氣でやつて居る。無心なる兒童がかくの如き事をなし保護者もそれを知らぬふりして居る事は、兒童の將來どんなものか。大塚校長の御考を聽きたいものだ。要するに總べて成人のやつて居る事は小供は眞似たがるものだ。指導階級に在る村長初め、村議諸公は今少し模範となるべく努力して欲しい。一村は一村筆者は大臣や顯官の言行を此處に筆にはせぬ。兎に角筆者は十二分の熟考と決心から玉川村政問題に對し、私情を絕排し、敢然正義の筆を、進むるものである。筆者の存在を認めぬと迷語せる彼等が反省するか、ペンが折れるか讀者諸彥よろしく靜觀あれ。

『眞立』

西村犀箭山氏逝いて本十四日は四十九日、酒井國手が氏の遭難當時を回顧して…

魔の谷を
血汐に染めて
散る紅葉
耕影

## 蛭田利光氏
## マスヤ雜貨店開業
### 長橋町 吉田商店跡へ

磐中十七回卒業の氏は平銀行へ勤務以來常盤、常陽と再三合併にも引續き平支店に居たが此程退社して平町長橋町四十番地吉田金作氏經營の雜貨店を繼承して「マスヤ雜貨店」と改稱、去月二十九日華々しく開業し勉强と誠實をモットーに努力するとの事で人氣は大變よい。

## 市制準備
## 內容と外觀考

平町は今や市制を布かんとして大童になつて隣村併合に努めて居るが今、町より市にしてそれも心然性に乏しい現況に無理をする事の如何？は別として、磐城文化の中心をなす平町に未だ曾て精神文化指導機關のない事は名の實に副はぬ憾がある。第一に商業校舍の腐朽せるにも不拘、豫算のなき爲とて卒業生、先輩諸氏の運動に俟たねば補强工事すら覺束ない狀態にある。第二には男女中等校があり相當に識者の住む町として完備せる公會堂を有さぬ、或は之に代へ得べき劇場すら存せぬとは余りにも當局の時代相觀察の力が鈍いのには心細くなる。第三に圖書館らしいものすらない幸に五丁目の諸橋元三郞氏が書籍其他を極力蒐集　三猿文庫とて私設圖書館の趣をなしては居るが、個人の私邸であつてみれば殊に繁忙なる商店の經營者なれば外見甚だ閑人の觀ある讀書氏のよく訪ひ得る處ではない斯く觀じ來たつて市制準備の運動を叫する時、平町民の余りにも精神文化を閑却してゐるのに一株の寂しさを感ずる。（熙宋生）

## 柳內氏祖父の訃
行年九十四歲

小名濱町柳內準平氏祖父次郞兵衞翁は九十四才の高齡を以つて過日永眠された。

至急公募
支店長採用（平町外樞要地）
代理店募集（右 同）
支店長は教養と資力有る努力家、代理店資力と信用ある有力者を求む、確實保證を要す。
希望者は略歷添付照會を乞ふ、出張面會す。
仙臺市北二番町四十四番地
大日本土地建物株式會社

高久病院
平町田町 電話五一三番
院長 高久忠
副院長 赤羽清
藥局長 佐竹菊雄

吸入用酸素 純度99%
計量器 モノサシ マス ハカリ
度量衡 体温器 寒暖計
關內藥局 電話四〇番

內科、小兒科
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番